



Vol. 148

CONTENTS

【コラム】10年間の感謝をこめて…小松原 潤子
【解説】文系学生に聞く、情報入試合格体験談—インタビュー記事—高橋 尚子



COLUMN

10年間の感謝をこめて

このたび「キミのミライ発見」サイト^{☆1}による高等学校情報教育への貢献に対して、情報処理学会様より感謝状を頂戴し、身に余る光栄に存じます^{☆2}。この感謝状は、このサイトの取材や記事作成にご協力くださったすべての皆様に対してのものであると思っております。この場をお借りして、お世話になった皆様に改めて厚く御礼申し上げます。

現在、このサイトには約300の教科「情報」の授業事例を掲載しています。大半の高校で情報科の先生は1人以下という中で、全国の先生方に先進的な事例を共有していただく場となりました。取材方針は、「どの学校でも再現が可能な授業」。限られた機材環境でも、初めての授業であっても、生徒が手を動かし、話し合い、時に失敗しながら何かを掴み取っていく授業の在り方を、なるべく先生方の生の言葉に近い形で紹介してきました。

先生方には、授業や校務でお忙しい中、原稿や仮サイトのご確認を、またスライドやワークシート等も惜しみなくご提供いただきました。どの先生からも、「皆で教科『情報』を盛り上げていこう」という熱いお気持ちが伝わってきました。技術の進化が速い分、他教科に比べて内容の変化が格段に大きい情報科の指導の難しさは想像に余りあります。その中で先生方が、教科「情報」を「入試に出るから」でなく、10年後・20年後の社会を生きるために必要なものとして真摯に向き合って作られた授業は10年前のものであっても古びることはありません。最近、大学の教職課程の授業研究でもこのサイトを使っていたという方がいました。まさに冥利に尽きる、というものです。

共通テストでの「情報」の出題は、高校の情報教育を一変させる出来事です。サイトを立ち上げた2013年当時、「情報入試」で検索しても、出てくるのは大学の「入試情報」ばかりでした。新型コロナウイルスによる休校が始まる直前の2020年2月、ある教育関係者に、「情報入試なんて実現するわけがない。選択科目に入れたところで、どれだけの大学が採用する？ 共通テストの記述式や英語の民間試験と同じで、どうせつぶれるよ」と言われたことがありました。それが今や共通テストにとどまらず、個別試験でも「情報」を出題する大学は広がりを見せています。大学入試での「情報」の出題には、さまざまな意見や反応がありますが、それでも「情報」の出題が情報教育の発展に寄与するという考えのもと、ここまでの変化を遂げているのは、この間の情報入試研究会の先生方のたゆみないご努力の賜物と思います。

このサイトの取材を通して、まさに日本の情報教育の大転換点と、そこにかかわられた方々のご尽力を目の当たりにすることができました。これからも皆様のお役に立てる情報発信に取り組んでまいります。変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。ありがとうございました。

☆1 <https://www.wakuwaku-catch.net/>

☆2 情報処理学会 2022年度 感謝状の贈呈, <https://www.ipsj.or.jp/award/kansyajyo.html>

小松原潤子（学校法人河合塾教育研究開発部）junko.komatsubara@kawaijuku.jp

学校法人河合塾教育研究開発本部教育研究開発部にて、2013年より「キミのミライ発見」サイト制作担当。